

令和 5 年度 園評価書

園番号 13 園名 服織中央こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている, C : あまりできていない, D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
「丈夫な体と豊かな心の子」 ・夢中になって遊ぶ子 ・心豊かな子 ・元気な子	わくわくがいっぱい!! ～どうして? どうなる? もっとあそぼう!～	安心して自分の思いを様々な方法で表現し、わくわくを感じながら、好きな遊びを楽しむ	保育者が子どもの姿や思いに寄り添い、肯定的に受け止めていくことで、子どもが自分なりの表現の仕方思いを表現し、安心して伸び伸びと好きな遊びを見つけ、楽しむ姿が見られた	A	A	・昨年度同様、すべての職員や関係者に共有され、その実現に向かう園の経営がなされていることが伝わってきて、本当に素晴らしいと思う。子どもたちの「遊びを深める」営みは、遊びから見えてくる子どもの育ちや課題を捉える目が不可欠であり、それは試行錯誤の繰り返しであり、絵に描いたようにうまくいくことばかりではないと思われながら、園の専門性ともいえるその取り組みに磨きをかけていっしょの姿勢にいつも敬意を抱いている	・保育者が子どもの楽しい思いを共有したり、その子の良さを認めたりしていきながら、安心して自分の思いを言葉や態度で表現していけるようにする
		遊びの楽しさや面白さを保育者や友達と共有しながら、夢中になって遊ぶ	子どもの遊びの様子を写真にし、クラスに掲示したり、ドキュメンテーションにしたりすることで、友達同士遊びの面白さを共有し、振り返ることができた。また、保育者が遊びの面白さに共感しながら一緒に遊んで楽しむことで、夢中になって遊ぶ姿が見られた	A	A	・日頃の子どもの様子から、また行事に取り組む姿から、子どもの姿や思いを大切にしようとしていることが伝わってくる	・保育者がその子なりの気付きや発見をまわりに発信することで、子ども同士が思いを共有したり、友達に思いを伝え合いながら遊びを広げていけるようにする
		様々なことに興味関心をもち、探求しながら遊びを深めていく	子どもが様々なことに興味関心をもち、「どうして?」「なぜだろう?」と不思議に思ったり、考えたりしている姿を捉え、保育者も一緒に考えたり、待ったり、見守ったりしていくことで、子どもなりに試したり、繰り返しやってみようとしたし、遊びの深まりが見られた	A	A		・子どもが友達との遊びに興味関心をもち、やってみようとするような環境を構成していく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	一人一人の発達や育ちを把握し、職員間で共有しながら、6年間の育ちを意識した教育・保育を行う	職員会議や園内研修の中で、6年間の育ちや発達に着目し話し合うことで、各学年で大切にすべき関わり方について職員間で共通理解し、意識して教育・保育を行うことができた	A	A	・いつまでも、明るく温かな園の雰囲気、教職員の方々の笑顔、子どもたちへのやさらかなまなざし、それによって引き出される子どもたちのやる気・元気、そういったものが一体となって、保護者からも厚い信頼を得ながら園の運営がされているのだからと感じている	各学年の発達や育ちを理解し、それぞれの年齢において大切にすべき関わり方について確認しながら、実践を積み重ねていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	朝の受け入れを丁寧に行い、個々の健康状態や生活リズムに合わせて、園生活が送れるようにする	朝の受け入れ時には、一人一人の保護者と丁寧に関わり、子どもの様子や健康状態について把握していた。また、子どもの内面や家庭状況に考慮しながら関わり方を考えていくことで、子どもが安心して園生活を送る姿につながっていた	A	A	・夏の参加会で、プール遊びを見させてもらった時に、プールの入浴の老朽化が気になった。予算の問題や夏場の強い日差し等があるかと思うが、歩くたびに痛く、子どもたちが怪我をしないか少し心配になったので、対策を検討していただきたい	引き続き、保護者との連携を大切に、朝の受け入れを丁寧に行いながら、一人一人の健康状態や生活リズムに合わせて教育・保育を行っていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	一人一人の遊びが深まり、「明日もやりたい」「もっとやりたい」と遊びが繰り返されていくよう、興味関心に応じた環境を構成していく	子どもが遊びのどこに楽しさを感じているのかを見取り、試行錯誤する様子を見ながら、遊び環境を構成していくことで、繰り返し好きな遊びを楽しんだり、遊びを深めたりする姿が見られるようになった	B	A	・子どもの発達を職員間で共有し、長期的な成長と年齢ごとの成長を深め、捉えることができることよい。施設の老朽化に関しては、次年度すに改善していく。毎月2回ほど、支援センターへお手伝いに来るが、毎回園に入るまで先生方の挨拶があり、子どもたちも明るく出迎えてくれ、その雰囲気はいつも素晴らしい。園より子ども様子をカラーで入りに掲示しているのがとても良い。園の様子が変わり、保護者もきつうらしいと思う。子ども一人一人の育ちや個性に伴う好奇心・探求心に対して、どういった援助や環境が必要か、先生方も本年度も深く研究されていることが、研修報告から伝わってくる。また、そのことが、育てたい資質・能力の育成に繋がっているのかといった視点にも常に立ち戻っておられることも、大切なことであると感じる	友達に気付きや発見、遊びの面白さを伝えながら、一緒に遊びの楽しさを共有することができるよう、環境を構成していく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	安全面を意識して環境を見直し、点検を行い、子どもが安心してやりたい遊びを楽しむことができるようにする	複数の職員で、遊び出し環境を構成していくことで、安全面を意識しながら、環境作りができた。また、安全な環境が整うことで、子どもが安心してやりたい遊びを楽しむことができた	B	A	・子ども一人一人の育ちや個性に伴う好奇心・探求心に対して、どういった援助や環境が必要か、先生方も本年度も深く研究されていることが、研修報告から伝わってくる。また、そのことが、育てたい資質・能力の育成に繋がっているのかといった視点にも常に立ち戻っておられることも、大切なことであると感じる	施設点検や朝の遊び出し環境を構成していく中で、安全に対する意識を高め、危険箇所は速やかに改善し、子どもが安心して好きな遊びを楽しめるようにしていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	食育活動や食育だよりを通して、「楽しく食べよう」の大切さを子どもや保護者に伝えていく	栄養士が日々の給食の様子を巡回し、子どもの喫食状況を確認しながら給食を調理したり、食育活動を行ったりすることで、食べることへの興味が広がり、苦手なものも食べてみようとする姿につながっていた	B	A	・季節を感じられる遊びに夢中になる環境を用意することは、健康教育そのものであると思われる。「食育だより」も読みごたえのある内容で、保護者に対して大きな啓発になっているのではないかと感じている	栄養士と相談しながら、食育の年間計画を作成。食への興味が広がっていくよう、楽しく食べることの大切さについて子どもたちに知らせていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	担当者会議において、一人一人の特性に応じた支援方法を検討し、園全体で学び合いながら支援の質を高めていく	担当者会議に加配担当者以外の職員が参加し、様々な角度から支援方法を考えていくことで、多くの支援方法を知り、職員も学ぶ機会も多かった。また、毎月ケース会議を実施し、様々な事例をもとに支援方法を考えていくことで、園全体で学び合うことができた	B	A	・特別支援教育に関しては、本年度、発達支援指導室(ひなげし教室)が開校され、その効果が早速認められるなど、小学校でもその効果が図られてきている。学校内でも、この「長期対応」の重要性が共通認識となってきた。入学説明会では、校長の話に加え、支援者級担当職員、通級指導担当職員も特別支援教育への偏見を払拭するための話をする時間を設けた。今後も園と小学校間で、特別支援教育に関する情報交換を積極的にさせていただきたい	特別支援コーディネーターがリーダーシップをとりながら、担当者会議を計画的に実施。ケース会議では、子どもの姿を共有し、応用行動分析を取り入れながら、支援方法を検討し合い、実践に活かしていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	乳児、幼児会議、職員会議、担当者会議等の情報を職員で共有し、連携を取り合いながら、教育・保育を進めていく	常に情報が共有できるよう、会議記録を作成したり、会議に参加できなかった職員に対し、口頭伝達を徹底することで、連携を取りながら同じ思いのもとで、教育・保育を行うことができた	B	B		情報を共有し合うことの大切さを再認識し、伝達方法を徹底させながら、同じ思いで教育保育ができるようにする
6 研 修	(1)研修体制の充実	子どもの「どうして?」「どうなる?」と探求している姿を見取り、保育者の援助のタイミングや環境構成について分析していく	研修主任を中心に、計画的に園内研修を実施。公開保育の事後研修において、研修テーマの手だてに沿って協議していくことで、保育者の援助のタイミングや環境構成の仕方について分析し、学びを深めることができた	A	A	・クラスよりをカラーにしたことで、子どもの育ちがより伝わりやすかった。参加会の懇談会で、クラス担任からクラスの様子や先生方の思いを直接聞くことができ、親として子どもとどのように向き合うか、改めて考える良い機会となった。年長になったとき、子どもは小学校に入学することに不安を感じていたが、今は、とても楽しみにしている。日々の関わりの中で、小学校へ行く楽しさを伝えてもらっているからだと思う	保育者が様々なことに興味関心をもち、一人一人が夢中になって遊ぶ姿を認め、その子の良さをまわりに発信していくことで、受け止めてもらった喜びから友達との遊びに目向けられるようにしていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもの遊びが深まるよう、子どもの遊びに合った教材、素材を選んだり、提供の仕方考えたりしていく	季節ごと遊び構想を作成し、全職員で共有。各学年のねらいや願望、遊びの過程を知ること、子どもの遊びに寄り添いながら援助の方法を考えていくことができた	A	A	・おたより発信については、内容について保護者が読み取る力があるかどうかということもある。保護者が読み取るおたより作りも大切である。保護者や地域の方々とつながりや信頼関係を深めるために、いろいろな工夫をされているのは、子どもに良い経験につながっていくと思う	友達との遊びの楽しさや面白さに触れ、気付きや発見を伝え合いながら、友達と一緒に遊びたいくなるような環境を構成していく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園の取り組みを可視化したり、送迎時に積極的に保護者に声を掛けたりして、子どもの育ちを共有していく	クラスよりを年に6回以上カラー印刷し、保護者に配布することで、子ども遊びの様子よりわかりやすく伝えることができた。また、日頃から意識して保護者に園での子どもの様子を伝えていくことで、子どもの育ちを共有し合い、保護者との会話を楽しむことができた	A	A		ICTを活用しながら、子どもの日々の様子や育ちを写真やおたよりで見える化し、伝えていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	小学校との接続について考え、研修日よりドキュメンテーション等を通して小学校に園での取り組みを発信したり、散歩などで訪問したりしながら連携をとっていく	研修日よりドキュメンテーションなど、園内研修の取り組みを冊子にして小学校に発信していくことで、こども園で大切にしていることを伝えることはできた。また、年長児が散歩で小学校に出掛けたり、学校探検をさせてもらったことで、小学校をより身近に感じることができた	B	B		就学に向けて、近隣園との交流を深め、期待をもって就学できるようにしていく。また、引き続き、小学校へ散歩したり、学校探検に出掛けたりしながら、計画的に交流をもつ機会を設けていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	計画的に園外保育に出掛け、季節の変化や自然に触れる機会を設けたり、お茶摘みや収穫体験を通して、地域の方々と交流したりしていく	コロナが5類に位置付けられたことで、夏祭り、運動会、クリスマス会を通して、支援センターに来る未就園の親子と園児が触れ合うことができた。また、外部講師を活用し、年2回環境学習を実施し、羽鳥地区の川で生き物と関わったり秋の自然物を使って遊ぶ楽しさを味わうことができた	B	B		年間計画に沿って、積極的に園外に出掛け、地域の方と関わる機会を設けていく。また、行事を通して、支援センターに来園する未就園児の親子との交流を深めていく